

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700182		
法人名	有限会社ライフケア		
事業所名	しきぶの里		
所在地	佐賀県嬉野市塩田町大字谷所甲 2385番地1		
自己評価作成日	令和5年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年3月2日	外部評価確定日	令和5年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた穏やかな環境。春には小鳥のさえずりが聞こえ、フキや李等の山の恵みを頂き、四季折々の花や紅葉によりホームにいなながら季節の移り変わりを感じることができる。バス停も近くにあり、交通の便も良い。日当たりが良く、開放的な食堂兼居間にみんなが集い、一人一人がゆっくりと思いいに過ごして頂ける環境づくりに努め、入居者が健やかに過ごし、一日一回でも大きな声で笑い、リラックスできる家庭的な雰囲気づくりに努めています。職員が笑顔で過ごすことが、入居者の笑顔につながると考え、実践しています。施設の基本方針である「個々の自己選択」「自己決定」を促し、見守りながら各自の能力に応じた自立支援に力を入れています。また、地域の皆様との交流を図りながら、開放的なグループホーム運営に努めています。施設の理念である『みんな笑顔でハッピーに』を実践していくため、職員一同努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

施設の中は日差しが差し込み明るく、季節に応じた壁飾りや写真が掛けられている。ケアの原点を表した理念「みんな笑顔でハッピーに」が自然に職員に浸透している事業所である。利用者に穏やかな表情と笑顔が見られることは家族に安心感を与え、事業所への信頼も生んでいる。コロナ禍ではあるが、感染予防対策を行いながら、近隣市町村のグループホーム協議会の研修会等に参加し、互いに情報提供したり、サービス向上を目指し頑張っているホームである。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より事業所理念を掲げ玄関廊下に掲示している。スタッフだけでなく、入居者様や来所者の方々の目にとまるようにしている。スタッフは、常に理念を意識してケアを実践するよう心掛け、努めている。	開設時に代表者と職員で作成された理念「みんな笑顔でハッピーに」は地域密着基本方針とともに今も思いは変わらず継続されている。職員は理念が記載された紙面をネームプレートの中に入れ意識しながら支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より地域自治会に入っており、区費を納め、回覧板や行政の配布物等により日常的に地域とつながりを持ちながら生活している。そのほか、スタッフが地域コミュニティー委員として役割を担い地域活動に参加している。毎年春と秋地域コミュニティーより花のプランターを設置して頂いたり、地域の方々から季節の野菜を頂いたり、花壇に花を植えて頂いたりしている。コロナ禍で地域との交流は減少しているが、地域の方々、ホームの方々の事を気にかけてくださっていると同時に、スタッフも地域の方々への声掛け、コミュニケーションを図ることを心掛けている。	事業所と地域との関係性は良好で、職員は地域の清掃活動など自主的に参加している。コロナ禍で施設への立ち入りは出来ないが、花や野菜を頂いたり、畑の草刈りなど行ってもらっている。周囲は民家は5件程度で高齢者が多い。災害時には避難先として活用してもらおう事を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進委員会の会議に地域代表として区長、民生委員、老人会会長等の方々に参加して頂いているが、令和2年3月からは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、委員が集まった会議の開催が出来ていない。しかし、2ヶ月に1回活動報告書を作成し郵送している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで、2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、会議では、2カ月間の行事報告、事故報告、入居者様の現状報告等を行ってきている。会議において施設の現状を知って頂き、委員の皆様より意見を頂きながらサービス向上に努めてきた。また、欠席された委員の方に対しては、後日資料、会議録を送付して来た。 令和2年3月からは、新型コロナ感染拡大の為、運営推進会議は、対面での会議を開催できていないが、活動報告書を送付し対応している。	奇数月を開催月としていたが、コロナ禍で感染状況を確認しながら委員の方と相談して判断し、令和2年より開催はできていない。事業所活動報告を毎回書面で報告し、各委員の方に送付している。	運営推進会議の目的は報告だけでなく、第三者の対面での情報交換、率直な意見をもらうことでそれをサービスの向上に具体的に生かしていくことが重要です。開催ができない折の各委員の意見の収集に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会のメンバーに地域包括支援センターの方に加わって頂いている。また、毎月開催されている地域ケア会議にも出来る限り出席するように努めており、毎年事例発表をさせていただく中でアドバイスを受けながら協力関係を築いている。 そのほか、手続きや法改正に伴う疑問や不明な点は、随時介護保険事業所や行政に問い合わせや相談をし、アドバイスを頂いている。	利用者の認定更新や入居についての相談がある等連携は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や窓は原則、夜間のみ施錠にて対応してきたが、現在は、防犯やコロナ感染対策として日中も玄関を施錠し、外部からの人の出入りを制限し、インターホン対応とさせていただいている。入居者様の日中の出入りは出来る限り自由にさせていただきたいと考え、一人一人の行動を見守り、声掛けしながら屋内から屋外への出入りは出来る限り制限しないよう努めている。 また、毎月行われる職員会議において、身体拘束について話し、身体拘束をしないケアについての理解を深めるように努めているとともに、外部研修への参加や学習会を実施している。	地域の12グループホーム交流会で研修が行われており、参加した職員は会議で伝達している。現在身体拘束を行っている利用者はいないが、転倒事故予防のためやむを得ず体感センサーを使用しているが書面での手続きがおこなわれ、家族の了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はないが、言葉により相手を傷つけることがないか職員間で注意を払い、虐待防止に努めるとともに、外部研修に参加したり、学習会を開催している。また、毎月の職員会議において話し合い虐待防止に努めている。玄関ホールには、虐待防止の指針を掲示し、スタッフが意識する環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回以上権利擁護についての学習会を行い、全スタッフでの理解を深める努力をしている。成年後見制度については、現在活用されている入居者の方もいらつやる。また、入居者様の生活自立支援を行う上では、各個人の能力に応じ、少しでも自立できるように支援することに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定後契約書・重要事項説明書に基づき説明をし、納得を頂いた上で同意・署名・捺印を頂いている。また、不安な点や疑問点に関しては、再度説明をし理解を得ている。改定の際には、文書にて説明を行うとともに、ご家族からの問い合わせに対して個別に説明対応を行うことで理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置している他、面会時等に個別にご要望や意見について声掛けをするように努めている。また、外部評価時に行われるご家族のアンケートを活用させていただき、ご家族より出された要望や意見について職員間で共有するとともに、職員会議にて検討し、運営推進会議にて報告し、意見を伺い今後の運営に反映できるように努めている。	コロナ禍による感染状況を見ながら面会の調整を行っている。家族には毎月の利用料送付時に担当職員による近況報告と写真が同封され家族にも好評である。来所時や、電話でも家族と会話ができる機会は大切にし、何でも話してもらえるよう努めている。家族からは早くコロナ禍が収束し面会制限がなくなることを望まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催される職員会議には、代表者をはじめ職員全員が集積することが原則となっている。職員からの意見・要望に関しても代表者が出席していることからすぐに回答を頂き、早期の解決が図られている。また、会議では言えなかったことも、管理者へ伝えることで、管理者は、代表者に繋げ、要望を伝える体制がとられている。	月1回の職員勉強会は全員参加で行われ社長、事務長も参加しており、職員は気兼ねなく意見を言う事が出来る関係が出来ている。不都合なことは改善でき、利用者にとって暮らしやすい環境、職員にとって働きやすいことを心掛けている。利用者の新しい食器の購入を要望し購入ができた。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の支給、研修参加の助成、超過勤務手当の支給等がなされている他、スタッフの配置に応じ無理のない程度に有給休暇を取得できるようになっている。また、代表者は、管理者や職員からの要望事項を聴き、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、職員のキャリアに見合った研修会参加を薦めている他、研修会参加の諸経費の負担や参加しやすい条件整備に努めている。 施設内研修は、伝達講習等の形式をとりながら年間計画を立て、月に1回程度担当者を決め実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	嬉野・鹿島・太良・白石地区グループホーム交流会が、2ヶ月に1回開催され、参加している。(参加グループホーム12カ所)他施設の情報や取り組みについて意見を交わす場となっており、参加した研修会の内容については、参加者が職員会議の場で報告し、情報を共有しながらサービス向上に努めている。コロナ禍で、リモート研修や開催の中止もあった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご家族やご本人との面談を行い、困っていることや不安なこと、ご要望を伺い、安心してご利用していただくための関係づくりに努めている。また、希望があれば、入居前にご本人に見学に来ていただき、入居者の皆さんと食事をして頂いたりレクリエーションに参加して頂く等ホームでの生活を体験して頂くことで、ご本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族との面談を行い、ご家族の疑問・不安・要望等を伺い、施設として「できる事」「出来ない事」を説明し、理解していただく様努めている。 入居後は、面会時や電話連絡、家族だよりにてご本人の生活情報を提供し、ご家族とのより良い関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各医療機関や地域包括支援センター及び担当ケアマネジャーや外部サービスとの連携を図りながら必要な支援を見極め、必要な方には、訪問診療や訪問歯科診療にて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日朝の集いを開き、入居者様の意向に沿った良い日の過ごし方をお手伝いできるように努めている。しかし、「朝の集い」に置いて「やりたいこと」を尋ねてもなかなか返事を得られない現状であるため、入居者様各自の「できる事」の把握に努め、こちらから選択肢を用意し、希望に合わせた活動の提供を行っている。以前は、料理等職員が教えてもらいながら一緒に行くことも多かったが、コロナ感染の拡大以降、入居者様と一緒に料理活動を行うことは出来ていない。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染拡大以降、行事を中止したり規模を縮小して行わざるをおえず、ご家族との外出や外泊も見合わせていただき、面会も制限させて頂いている状況。現在、面会は感染防止対策を行ったうえで、玄関ホールにて短時間ではあるが、ご家族との時間を持つ頂ける様にしている。遠方のご家族とは、電話で話をして頂くことで家族のきずなを再確認して頂き、普段の生活をその都度お伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染拡大以前は、外出ドライブの際、各入居者の馴染みの場所に出かけるよう努め、個々の希望により行きつけの美容室へ行ったり、自宅訪問の支援を行っていたが、コロナ禍で、外出ドライブの機会も減り、馴染みの場所等へも出かけられていない。ご家族とは、玄関ホールでの面会や電話等で関係が途切れないよう支援している。	普段の会話の中で馴染みの場所や知人、友人の思い出話が聞けることもあるが、コロナ禍で外出支援はできていない。要望があれば、固定電話など用いて関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うもの同士がお互い自然と寄り添い談笑されている。職員は、入居者の相互関係を十分に把握し、声掛け・介入することで一人が孤立しないよう心掛けている。時には、食事のテーブル席を変更し、より良い関係が築ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は、長期療養を必要とし退去された方に対して、随時面会に出かけることで関係を立ちきらない取組みを心掛けてきた。ここ2年ほどは退去される方はなかったが、コロナ禍で短期の入院時にも面会に伺うこともできなかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎朝行っている「朝の集い」において「食べたい物」「行きたい場所」等入居者皆様の希望を尋ね記録している。「出来ること」は即日実行し、無理な場合は後日計画し実行している。ただし、現在、入居者の皆様が、自ら希望を述べられることが少なくなっている為、スタッフがいくつかの提案をし、それに対して賛否を問うたり新聞や広告・雑誌等を見ていただき皆様に選んでいただく等しながら、一人一人の思いや希望・意向に沿えるよう努めている。	利用者には入居時から担当職員が決められている。これまでの暮らしの把握は家族などから、今の生活については利用者とゆっくり寄り添い会話の中から思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活習慣、得意分野の活動等の情報を収集し、職員が職員が情報を共有できるようフェイスシートに残している。また、入居後に明らかになった情報に関してもその都度フェイスシートに追加記載し残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事活動(掃除・洗濯物たたみ等)や下肢筋力低下予防のための歩行運動や下肢の筋力アップ運動等各人の状態・状況に合わせて実施している。心身の状況把握は、受診記録や援助記録にて共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞くとともに、主治医や訪問歯科医、薬剤師等必要な関係者から意見を聞き、計画担当者を中心に職員で検討し、現状に即した計画立案に努めている。また、モニタリングは定期的に行い、次のケアプランに生かせるようにしている。そのほか、カンファレンスノートを活用している。	利用者には日々のかかわりの中で、家族とは面会時などに思いや意見を聞き計画に反映させるようにしている。担当者会議も家族と電話で対応した内容や主治医の意見など記載されている。モニタリングもきちんと行われ現状に即した介護計画が作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、施設サービス計画の長期目標、短期目標に沿って記録している。日々の記録は、サービス計画の見直しの材料として活用している。そのほか、必要事項は、カンファレンスで問題提起したり、計画担当者に申し出るとともに職員会議の場で話し合いを行いケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科診療等入居者のニーズに合わせ対応している。事業所での生活をマンネリ化させない為にもこれまでは、外出レクリエーションやボランティアの受け入れを積極的に行ってきたが、新型コロナの感染拡大以降、ボランティアの受け入れは行えていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでのボランティアの受け入れ状況 ・アコーデオン(毎月) 演奏に合わせ歌や体操、そのほか入居者の得意とする歌や特技を披露して頂き、各自の力を発揮する機会を設けている。 ・大正琴、詩舞、剣舞、フラダンス等 (今年度は、ボランティアの受け入れなし)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人・家族の希望にて決めている。特に希望のない場合は、協力医療機関にかかりつけ医をお願いしている。受診は、出来る限りご家族に付き添いをお願いしているが、家族が付き添いできない場合は、職員が付き添い介助している。 ご家族が受診介助される場合は、現在の状況等の情報を書面にし渡したり、直接病院にFAXをして情報提供している。そのほか、必要に応じ主治医に電話連絡することで情報提供している。 また、訪問診療を受けておられる方に対しては、訪問日の朝、FAXにてご本人の状態・状況を伝え、受診の際、直接主治医に相談を行い、ご家族の意向等を伝えている。	事業所の協力医のほか入居前のかかりつけ医での医療が継続できることを入居時に伝えられている。協力医、かかりつけ医ともに他科受診も含め基本的に家族付き添いとなっているが、困難な場合は職員で対応し、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の入居者とのかわりの中で異常の早期発見を心掛け、随時看護資格を持つ職員に報告・相談を行い適切に対応している。その結果、主治医への報告・連絡・相談もスムーズにでき、適切な受診に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後はご家族同伴にて主治医面談を依頼し、治療期間や治療方針の説明を受け、今後の施設利用について検討している。 入院先の医療機関とは管理者または計画担当者が、病棟や地域連携室と情報交換をしながら早期の退院に向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、施設で対応できること、出来ない事をご家族に説明し、契約を交わす段階から終末期についても意向を聴取している。また、家族の気持ちも時間の経過とともに変化される為、状態の変化のあった時や面会の際に随時意向を確認し、新たに要望が出てきていないか確認している。 終末期の施設方針や手順についても準備している。 開設時は、看取りを行った事例はあったが、最近では、ご家族の最終的希望がなかったため、看取りの事例はない。	過去には看取りの経験もあるが近年は行っていない。今後、本人や家族の要望があれば体制や職員の力量等も考慮しながら整えていきたいと考えている。入居後、病状の悪化など状態の変化があれば家族と話し合いを行い、協力医やかかりつけ医の指導の下、本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内、施設外研修会にて急変・救急時の対応について知識を深めている。緊急時のマニュアルも作成し、全スタッフがいつでも対応できるよう技術の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は、年2回夜間を想定し、通報・消火・避難誘導訓練を実施している。そのほかの災害訓練も年1回実施している。令和元年には、地域の防災避難訓練にも入居者さんとともに参加し、地域避難所の確認及び避難後のシミュレーションを行った。昨年は、地域のグループホーム交流会において、グループホーム間での連携による災害時の対応の訓練に参加した。 避難訓練の際には、写真撮影を行い、訓練の様子を記録した報告書を作成し、今後の避難訓練に役立つよう記録として残している。	年に2回夜間想定訓練を実施している。近隣に民家は5件ほどあるが高齢者が多いため参加されてはいない。地域の防災訓練に参加した事があり避難場所も把握している。BCP(事業継続計画)策定も始められており、災害時の備蓄も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念である『みんな笑顔でハッピーに』を念頭に置いた言葉かけや対応を心掛けている。日常の言葉かけや対応において、職員間で気づいたときには注意し合い、職員会議の場でも話し合い適切な対応を心掛けている。また、個人情報及びプライバシーの保護についての学習会も年に1回行い、職員の理解を深めている。	人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けはせず、さりげない言葉かけを実践するよう努めている。難聴者も多いので場所を移動して声掛けすることもある。ホーム便りや施設内の写真の記載などは家族の承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日「朝の集い」を開き、「今日は何をして過ごしましょう」「食べたい物がありますか」「どこか行きたい所はないですか」と皆さんに尋ね、入居者様各人が、思いや希望を表すことが出来る場面を作ることで、自己決定できるよう働きかけている。しかし、近年は、尋ねても意思表示をされる方が少なくなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の「朝の集い」の中で、「今日は何をしましょう」と尋ねている。近年は、意思表示をされる方がすくなくなっているが、趣味やドライブ等可能な限り希望に沿った支援に努めている。コロナ感染拡大以降、外出を控えており、希望があっても外出を控え、室内で活動することが中心となった。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各居室のクローゼット内は、本人が使いやすいように、スタッフが一緒に整理を行っている。着替える際は、好みの洋服が着れるよう声かけを行っている。毎日の整容に関しても声掛けを行い、髪をとかず等の支援を行っている。時には、化粧をしておしゃれを楽しむこともある。男性に関しては、気軽に髭剃り等できるよう電気カミソリや鏡を準備し、環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「朝の集い」の場でその日の献立を紹介した後、「食べたい物」を尋ねている。材料があれば献立を変更し、希望の食べ物を提供するよう努めている。食事の準備は、現在感染防止の観点からすべてスタッフがやっているが、以前は、女性を中心に野菜の皮むきや味見、盛り付け等されていた。食後のお盆拭きやテーブル拭き等の手伝いもされていた。現在、食物アレルギーを持っている方はいらっしゃらないが、入居者一人一人の体調を見ながら、食事を提供している。	職員が献立を考え、当日の当番が調理している。利用者の希望や近所からの野菜の差し入れ等によりメニューを変更する事もある。コロナ禍以前は手作りで「おはぎ」など利用者と一緒に作り、近所の方にもおすそ分けしていたが今はできていない。利用者の誕生日は本人が食べたい食事の献立で調理し市販のホールケーキでお祝いし喜びを感じてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉・魚・野菜の栄養バランスを考えながら献立をたて提供することを心掛けている。毎月初めに体重測定を実施してるほか、毎食各人の食事摂取量をチェックし、食事の摂取状況の把握に努めている。また、各人の体調や嚥下・咀嚼の状況に合わせ主食を粥に変更したり、刻みやミキサー食にして提供したり、水分にとろみをつけたりして提供している。飲水量が少ないと思われる方に対しては、水分摂取時にその量をチェックし一日の水分摂取量の把握に努めている。水分摂取量が少ない場合や食事が入らない時には、本人の好む飲み物や食べ物を提供する等工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後、歯磨きや義歯洗浄の声掛け・見守り・介助を各人に合わせて行っている。義歯使用者の義歯については、夜間義歯洗浄剤を使用している。そのほか、訪問歯科診療にて定期的に口腔ケアを行って頂いている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声掛けにてトイレ誘導介助や声掛けを行っている他、個々の行動・習慣・尿意・便意の訴えに合わせてトイレ誘導介助をしている。夜間もリハビリパンツや尿取りパットを併用し、本人の訴えや行動に合わせて居室のトイレや共用トイレ(車いす対応)に誘導し、トイレでの排泄や排泄自立に向けた支援に努めている。	紙パンツの方でもトイレでの排泄を基本としておりトイレまで誘導し介助している。、自分で排泄可能な利用者は夜間は転倒予防の為体感センサーを用いて職員がキャッチし、自室でのトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や歩行運動等適度な運動を行うとともに、水分補給や野菜を多く取り入れた食事の提供、朝食時のヨーグルトの提供等便秘の予防に取り組んでいる。毎日排便の有無を確認し、排便の状態について主治医に相談しながら、必要な方には、薬を処方して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は日中に行い、週2～3回、一日に3～4人の方がゆっくりと入浴していただけるよう努めている。風呂は、毎日準備している為、希望があれば毎日でも入浴できる。体調によっては、入浴を中止し、足浴や清拭で支援することもある。入浴には、職員の声掛け・見守り・介助が必要である。 季節により、湯船に「菖蒲」や「ゆず」を浮かべ季節感を味わって頂くことも行っている。	家庭用のユニット浴室である。浴室は毎日準備、午後から入って頂き一人当たり週2～3回入浴を支援している。、浴槽に浸かるのが困難な重度の方はシャワー浴で対応している。浴室はエアコンで、脱衣所ヒーターで室温管理されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は、本人の状況に合わせて行っている。夜間不眠時には、ホールや居室でゆっくりと過ごして頂き、本人のタイミングで気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別につづり、薬の管理は職員が行っている。薬の変更があった場合は、特に気をつけ、服薬後の状態を観察し、変化のある場合には、速やかに主治医に報告・相談している。また、調剤薬局による管理指導も受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自ができる事を手伝って頂き、趣味や特技を発揮し、日々を楽しみながら過ごして頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事として外出計画を立てたり、「朝の集い」で「行きたい所」の希望を聴いたり新聞等で情報を得てドライブやふるさと巡り、外食等行っていたが、コロナ感染拡大以降外出する機会も減っている。コロナ感染拡大以前には、自宅への外出・外泊、家族との温泉宿泊等行ってきたが、現在は、ご家族・本人に説明し、実施していない。 日常的な気分転換として、天気の良い日に外庭に出て草花を楽しんだり、散歩をする程度にとどまっている。	コロナ禍で外出する機会が減っているが、利用者に行きたい場所を聞き数名ずつ車窓ドライブに行くこともある。天気の良い日は施設周辺の散歩や駐車場に出て日光浴をしたりして、利用者が気分転換になるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自預り金があり、必要に応じ物品の代理購入をしている。以前は、外出時に好きなものを買って頂いたりしていたが、現在は、買い物外出も出来ない。個別で現金出納帳を作成しており、毎月ご家族に収支報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話でご家族からの電話を取り次いだり、本人の希望でご家族に電話をする等の支援を行っている。また贈り物があったときに、スタッフが援助し電話をかけ、本人に話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の悪臭防止の為換気に気をつけている他、室温や湿度管理にも気をつけている。現在は、感染防止の為、これまで以上に注意を払っている。 廊下の照明は、センサーにより自動点灯するようになっており、入居者の安全確保に努めている。 室内には、季節の花を飾ったり、壁面に季節の飾りつけや、入居者の作品等を掲示するなど工夫をしている。	日中過ごされるホールは日当たりがよく、思い思いの場所でゆっくり過ごされている。利用者が寛がれている場所からキッチンが見え、調理の準備や料理の臭いを感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに3人掛けソファを1台、ホールに1人掛けソファを4台設置している。気の合ったもの同士ソファに座り話したり、日向ぼっこをしたり、昼寝をしたりと思い思いに過ごすことのできる場所となっている。また、一人で過ごしたいときには、居室にて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやテレビ、仏壇等本人の好みのものや使い慣れたものを持参され各居室に設置されている。室内は、ご家族の写真やご自分で作られたクラフト作品等が飾られ、ご家族やご本人の思いをくみ、心地よく過ごせるように配慮している。	室内は日当たりもよく、全室洗面台・トイレが設置してあり又クローゼットも大きくそれぞれ利用者が居心地の良さを配慮された居室である。加湿器が設置され、感染予防対策として消毒も日々行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の行動に合わせた家具やベッドの配置を行い、出来る限り自分で動けるように配慮している。 危険がない限りは、洗濯物スタンドを居室内に設置し、出来る方は、自分で洗濯物を干したり、たたんだりしていただき、本人の使いやすいように収納する支援を行っている。 クローゼット内は本人の使い勝手が良いように本人と相談しながら整理し、衣類をわかりやすく収納している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない